



腹部MRI・MRCP 検査

今回は

磁気共鳴画像 MRI : Magnetic Resonance Imaging

磁気共鳴胆道膵管造影 MRCP : Magnetic Resonance Cholangio-pancreatography

です。

当健診センターでは、2016年11月より膵臓がんの早期発見に有用な、経口消化管造影剤（ボースデル[®]内用液 10：塩化マンガン四水和物）を使用した腹部MRI・MRCP検査を始めました。腹部超音波検査では見つけることが難しい1cm未満の膵臓がんを発見することができます。



腹部MRI検査

磁気を利用してあらゆる断面の画像を得ることができる撮影方法で、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、腎臓の異常などを調べることができます。

MRCP検査

MRI検査の一種で、胆嚢、胆管および膵管を調べることができます。水分を強調し、水分のあるところが白く造影されます。ボースデル[®]内用液 10を服用することで、胃・十二指腸が黒く映る（陰性造影）ため、白く造影される胆嚢、胆管、膵管を明瞭に抽出できます。



胆嚢 胆管 膵管

膵臓がん、胆管がん、胆嚢がん、胆石、総胆管結石、胆管拡張症、膵管拡張症などの発見に有効です。

●検査を受ける時の注意

- ◆強い磁力が発生するため、心臓のペースメーカーを埋め込んでいる方や、手術等で体内に金属が入っている方は撮影ができないことがあります。
- ◆検査中は大きな音がします。閉所恐怖症の方は検査ができないことがあります。
- ◆バリウム検査と同日実施はできません。
- ◆上部消化管内視鏡検査後は、咽頭麻酔のため、1時間以上空けてから検査開始となります。
- ◆糖負荷検査実施の場合は、ぶどう糖液（トレーランG液）飲用後2時間空ければ受けることができます。



●**禁忌** 透析中の方、妊娠中の方、ボースデルに対して過敏症のある方（マンガン過敏症）

●**造影剤の副作用** 軟便、下痢、腹痛、腹鳴、悪心、腹部膨満など（発生頻度 0.1%～5%）

膵臓がん



膵臓は胃の後ろにあり、長さ20cmほどの細長い臓器です。膵臓にできるがんのうち90%以上は、**膵管の細胞**にできます。膵臓がんは他のがんと同様に早い段階で特徴的な症状はありません。見つかったときにはすでに進行していることが多く、性質（たち）の悪いがん、怖いがんと言われています。5年生存率（がんと診断されてから5年後生存している人の割合）は他の部位のがんに比べ著しく低く、早期発見が極めて重要です。

がん死亡数

多い部位

(2014年)

- 1位 肺
- 2位 大腸
- 3位 胃
- 4位 **膵臓**
- 5位 肝臓

膵臓がんを起こす危険因子

- 喫煙
- 糖尿病
- 慢性膵炎
- 膵のう胞
- 膵臓がんの家族歴 など

腹部MRI・MRCP検査のご案内

オプション検査：22,440円

完全予約制（2016年）

